何でも見てやろう！の意欲

奥田 静子
栃木県

日光東照宮には、三猿「見ざる」「聞かざる」「言わざる」の有名な彫刻があるが、
19歳の若き奥田さんは、新しい世界へ興味がいっぱいで、
何でも見てやろう、何でも聞いてみたい、いろんな人と話がしたいと、
意欲あふれる青春期を過ごされた。
県立の保育専門学校に通学していた車内で、ろう学校に通う学生たちが手話で話す姿に心惹かれ、
同級生の友人を誘って、ろう学校へ手話を教えて欲しいと訪問した。
それは今の手話形態(同時法)の黎明期ともいえる時期と合致し、
ろう学校に快く受け入れられ、数か月間学ぶことになる。
そのことが、その後の人生を大きく変えた。

通訳者の健康を考える定例学習会

同郷で活躍している下城さん、渡辺さんと

手話サークルたんぽぽのメンバーのワタルくんは、
盲ろう協会の活動を最近 Facebookやインスタグラムに
アップしている

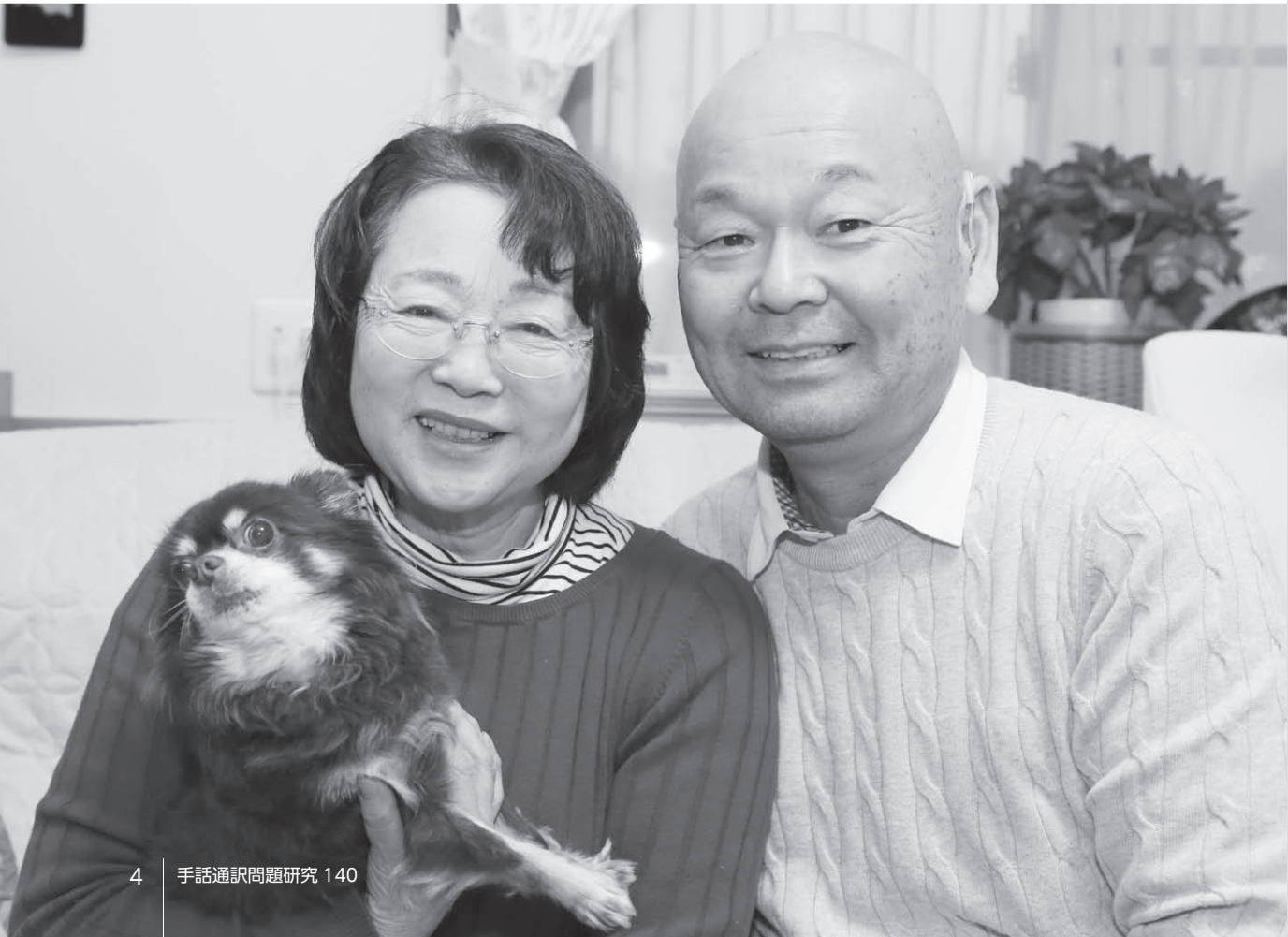
手話関係の
仲間たちと

とにかく、奥田さんの行く先には、いつも多くの人が集まる。
人々を引き付けるパワーを発している。
昨年の７月、開所式を迎えた「ふくろうひろば」（ろう者の集いの場）の
運営に当初から関わり、
場所の借り受け交渉から運営事業費の捻出、多くの楽しい企画へと、
休みなく注がれる情熱は利用する人々へ、熱く伝わっている。
取材の都合上、急なミニ交流会を企画していただいても、
誠に多人数の盛況ぶりです。

周りの人々から「おくまま」「おくぱぱ」と慕われるご夫妻は、
孫世代にも超人気。
鬼ごっこをせがまれ鬼役を長時間仰せつかるのは、
チョットきつそうだけど、
そんな要望にもしっかりと応えていた。

孤塚さんとは10代から一緒に手話を学び始め、
二人三脚で支部活動をしてきました

近所に住む兄夫婦と姉２人

奥田夫妻の出会いは、奥さまが保育専門学校を卒業した頃、
ろう学校主催の「ろう者と聴者の交流キャンプ」がきっかけでした。
お互いに通じあい、心惹かれるようになり、結婚へとジャンプした。
長き人生の伴侶として、お互いが気遣い、助け合う姿は、
幾多のことを乗り越えた同志たちの、幸せの証である。
二人三脚で、これからの益々のご活躍は、止まることはない。

写真/文　松本 博